

Ⅲ 今月のトピックス

【EU域内における農業市場および農業収入の見通し（2008年～2015年）】

欧州委員会農業・農村開発総局は、2009年3月に「EU域内における農業市場および農業収入の見通し（2008年～2015年）」を公表している。本見通しでは、穀物、油糧種子、肉類、卵、乳製品を対象として、EU-27、EU-15、EU-12それぞれにおける2015年までの1年ごとの需給バランス等が定量的に示されており、また、EU域内における農業収入も、同様に定量的に示されている。穀物、油糧種子に関する見通しについては、以下のとおりである。

1 農業市場に関する見通しの手法

2009年1月末時点で得られるデータが使用されており、ヘルスチェック後のCAP（共通農業政策）が維持されること、世界貿易はウルグアイラウンド協定に従うことが前提条件として置かれている。また、経済状況に関しては、図1のように米ドル/ユーロ交換率およびGDP成長率の仮定を置いている。

なお、本見通しには、ESIMおよびAglinkの2つの部分均衡モデルが使用されている。

2 穀物に関する見通し

穀物の生産量は、2008/09年度のピーク（311.9百万トン）の後は、数年間は減少し、その後上昇に転じて2015年には、302.0百万トンとなると見通されている。EU域内消費量は、バイオエタノール消費の急激な上昇を主な要因として上昇を続け、2015年には288百万トンとなると見通されている。輸出量は、大きな変動はなく25～30百万トンの範囲で推移し、2015年には25.3百万トンとなると見通されている。輸入量も大きな変動はなく10百万トン前後で推移し、2015年には10.5百万トンとなると見通されている。期末在庫量についても、2007年に大幅に低下したものの、2008/09年の生産量大幅増加に伴い67.8百万トンに回復した後は大きな変動はなく、2015年には66.2百万トンとなると見通されている。

穀物の価格については、具体的な数値は示されていないものの、短期的に価格は低下するが、中期的に価格は上昇し、過去10年よりも高いレベルとなると見通されている。

短期的な価格の低下の主な要因として、

- ・ 経済危機の影響により、飼料用需要の減少を中心として、需要が減少すること
- ・ 義務的休耕（Set Aside）が適用されないことが挙げられている。

一方、中期的に価格が上昇する主な要因として、

- ・ バイオ燃料需要が増大すること
- ・ 単収の緩やかな伸びること
- ・ EUにおける在庫が低いレベルになることが挙げられている。

図1 見通しの前提となるGDPの成長率と為替レートの仮定

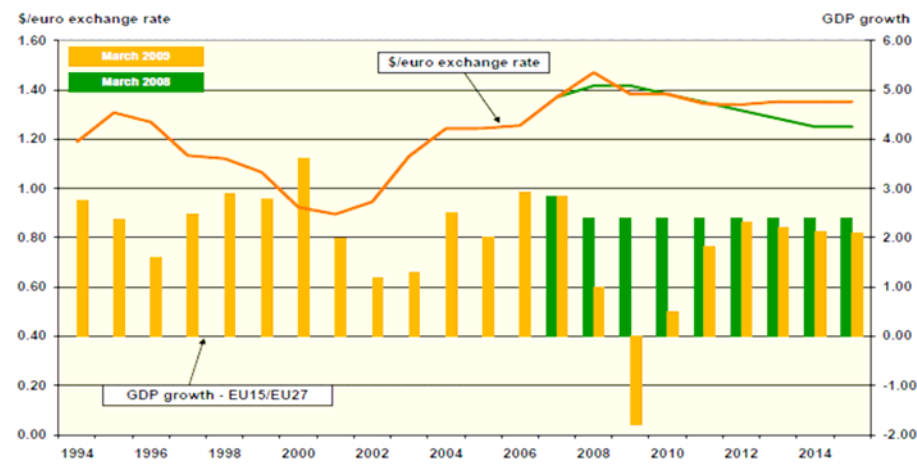
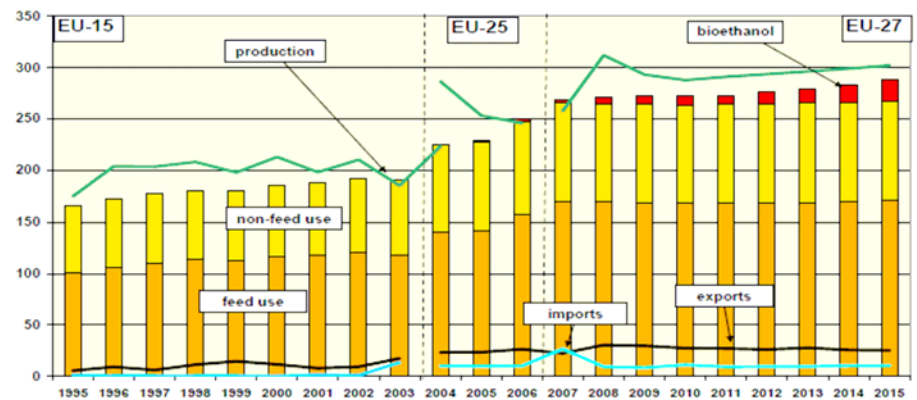


図2 穀物需給の動向と見通し（1995-2015、百万トン）



3 油糧種子に関する見通し

油糧種子の生産量は、2015年にかけて大きな変動はなく、2015年に24.8百万トンとなると見通されている。消費量は、2009年に一旦減少するものの、その後徐々に増加し2015年に45.1百万トンとなると見通されている。また、消費量は伸びるものの、生産量がほぼ横ばいとなるため、輸入量は2009年にいったん減少し、その後徐々に増加して2015年に21.3百万トンとなり、引き続きEUは油糧種子の大輸入国の一つであり続けると見通されている。

油糧種子の市場については、価格等の具体的な数値は示されていないものの、EU域内におけるバイオディーゼル需要の増加等により下支えされると見通されている。

4 経済・金融危機の影響

本見通しでは、昨今の経済・金融危機は、多くの農業部門は短期的に需要減退という負の影響を与え、特に付加価値商品において影響が大きいと述べられている。

表1 EUにおける穀物需給表（2006-2015、百万トン）

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
使用可能生産量	267.1	257.7	311.9	293.0	287.7	291.0	293.6	296.2	299.0	302.0
うち EU-15	195.7	194.0	225.9	213.3	206.7	209.1	210.4	211.7	213.1	214.6
EU-10	50.2	52.7	62.2	58.3	58.1	58.8	59.5	60.4	61.3	62.3
EU-2	21.3	11.0	23.7	21.4	22.8	23.2	23.6	24.1	24.6	25.1
消費量	266.0	267.9	270.9	271.8	272.1	273.1	275.9	279.5	283.2	288.0
うち 食用、産業用	84.7	84.6	84.9	85.3	85.4	85.6	85.9	86.1	86.4	86.6
うち 飼料用	167.9	170.0	168.8	168.0	167.7	167.7	168.4	168.6	169.4	170.3
うち バイオエネルギー用	2.8	2.5	6.5	7.8	8.3	9.1	10.9	14.1	16.9	20.4
うち EU-15	211.5	211.9	214.9	216.4	216.7	217.6	219.9	222.6	225.7	229.7
EU-10	35.1	36.3	37.3	36.4	36.4	36.4	36.6	36.9	37.2	37.5
EU-2	19.5	19.7	18.7	19.0	19.0	19.1	19.4	20.0	20.4	20.8
輸入量	10.1	26.7	9.4	8.4	11.3	9.2	9.6	9.6	10.4	10.5
輸出量	26.5	22.4	30.5	29.9	27.4	27.2	26.3	27.7	25.6	25.3
期首在庫量	69.2	53.9	48.0	67.8	67.5	66.9	66.9	67.9	66.5	67.0
期末在庫量	53.9	48.0	67.8	67.5	66.9	66.9	67.9	66.5	67.0	66.2
うち 市場介入量	2.6	0.0	1.5	1.6	1.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
うち EU-15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
うち EU-10	2.6	0.0	1.6	1.6	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
うち EU-2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表2 EUにおける油糧種子需給表（2006-2015、百万トン）

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
使用可能生産量	22.5	22.2	25.1	24.6	24.5	24.5	24.4	24.6	24.9	24.8
うち EU-15	14.6	15.1	15.4	15.4	15.3	15.4	15.3	15.4	15.6	15.6
EU-10	4.7	5.4	6.1	5.8	5.8	5.8	5.8	5.9	6.0	6.0
EU-2	3.3	1.7	3.6	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
消費量	38.6	39.2	42.5	41.2	41.5	42.6	43.1	43.6	44.3	45.1
うち EU-15	33.2	34.3	36.4	35.4	35.7	36.8	37.3	37.8	38.4	39.1
EU-10	3.4	3.8	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
EU-2	2.0	1.1	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6
輸入量	16.1	18.0	19.0	17.3	18.0	19.2	19.6	20.1	20.5	21.3
輸出量	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
期首在庫量	8.7	7.7	7.8	8.5	8.2	8.3	8.5	8.6	8.7	8.9
期末在庫量	7.7	7.8	8.5	8.2	8.3	8.5	8.6	8.7	8.9	9.0

注1：EU-10は、2004年5月に欧州連合に加わった加盟国である。

注2：EU-2は、ブルガリアとルーマニアである。

※ 上記の詳細は、欧州委員会農業・農村開発総局のHPをご覧ください。http://ec.europa.eu/agriculture/publi/caprep/prospects2008/index_en.htm